

一般質問



吉原 議員

一、原子力防災訓練の総括と防災無線のメール配信について
二、婚活支援の充実について

質問

一、(1)放射性物質拡散の場合、住民一人たりとも残すことなく避難させなければなりません、独りで動けない人等の避難訓練はどうお考えか。
(2)災害発生時、情報の確実な伝達手段として、携帯電話のメール配信が大変役立ったと聞くと、防災無線のメール配信についてはどうか。
(3)現在、消防団へは本部分団長以上へ消防署からメール配信されているが、それを団員まで拡大登録させ、瞬時に確実な情報の伝達をすべきではないか。また、災害現場の個別情報を伝達すべきでは。
二、少子高齢化がますます進行していく現在、男女の出会いを支援し、カップルを誕生させることは市政の重要な課題です。
(1)婚活支援窓口の登録人数は何人か。
(2)婚活支援の事業内容を多くの市民の目に触れるところに示すべきでは。
(3)今後どのようなイベントをどの頻度で計画しているのか。
(4)人目を気にせずに登録や相談できる環境をつくるべきではないか。
(5)各地区に婚活サポーターを設置する考えはないか。

答 弁

一、(1)今回の訓練では、要援護者、要支援者の避難誘導が現実として実施できなかった。入所者や在宅の要支援者等の方をどう取り入れるかが反省事項としてありました。
(2)複数の伝達経路を備えることが必要だと考えます。現行のシステムの中でどのように活用できるのか研究していきたい。
(3)消防団員への災害情報の伝達については、消防団の会議の中で議論しながら、どういう伝達方法がいいのか、団員の意見も頂きながら研究したいと思います。
二、(1)現在、男性18名、女性6名、計24名の登録です。
(2)利用が多い施設でのチラシ配布はPR効果が高いと考えておりますので、設置について施設管理者と協議いたします。
(3)12月に市主催のバスツアーを、2月に婚活inまつうら実行委員会主催のイベントを考えています。
(4)庁舎内にプライバシーに配慮した場所が取れないか検討いたします。
(5)新年度に地域サポーターのようなものを設置していきたいと考えます。

一般質問



金内 議員

一、海底調査で発見された元寇船の保存活用について
二、市が指定している緊急避難所の看板設置について

質問

一、今回、琉球大学の池田教授を代表とするグループによって発見された元寇船を初めとする数多くの遺物については、単に市の貴重な遺物ではなく、日本また世界的にも貴重なものであります。政府も閣議で、鷹島沖海底で発見された元寇の沈没船と見られる船体の保存について、地元自治体などを適切に支援すると決定されております。遺物の保存活用は、海底での保存ではなく、引き揚げての保存活用を行うことが、鷹島を初め市の観光の大変な起爆剤になると思いますが、市長の考えをお尋ねします。
二、昨年の12月、市が指定している緊急避難所に看板や標示をする考えがないのか質問をしました。「確かに市民の方々がどこに避難しているのか周知がなされておられませんので、看板の設置が必要と考えております」と答弁があっておりましたが、緊急時に市民の方々が生命を守るために避難される避難所に、一年経過しても一枚の看板や標示を設置する予算の捻出ができなかった主な理由についてお伺いをします。

答 弁

一、引き揚げをして保存活用するということですが望ましいですが、この遺物の大きさや状況をしっかりと確認する必要があると思います。
このことについては、池田教授ほか関係者の意見を十分拝聴し対応することが重要だと思っており、やはり、元寇船を海底に眠らせるのではなく、引き揚げるができるならば、そのように取り組んでいくべきだと思っております。
二、現在、地域防災計画の見直し作業も並行して行っており、特に原子力防災については二月をめどに行うこととしています。
東日本大震災、福島原発事故が発生しまして、本市においても今指定している136カ所の避難所の中で、どこがどの災害に対応する避難所なのかを整理、区分する時期でもあります。この地域防災計画が一定のめどがついたときに看板の設置をと考えており、現在のところは予算措置に至っておりません。平成24年度の当初予算に計上したいと思っております。